

## 8 手術室

2013年度の手術件数は1755件で、昨年度に比べ327件の増加となりました。新病院開院、新手術室稼働から1年経過し余裕ができたことに加え、眼科、皮膚科の手術が始まったためと考えられます。

科別（昨年度）では、外科497件（464件）、整形外科328件（233件）、泌尿器科336件（333件）、呼吸器外科76件（59件）、耳鼻科76件（47件）、婦人科167件（182件）、口腔外科27件（16件）、脳神経外科26件（19件）、心臓血管外科47件（24件）、眼科104件（0）、皮膚科15件（1件）、循環器内科24件（25件）などです。

麻酔科管理症例は1335件（硬膜外麻酔、脊椎麻酔併用の全身麻酔1190件、脊椎麻酔のみ135件、手術室でのペイン対応を含め）で、各科麻酔は420件でした。各科麻酔には眼科、皮膚科、循環器内科（PCI含む）24件の他に心臓血管外科のペースメーカー埋め込み等も含まれます。

2012年度から稼働した新手術室では高度な機器も多くあります。これら機器を作動させる一番の担い手は十分な人数とはいえない数の看護師です。これから全面開院となり、手術件数増加が見込まれます。手術室の安全、効率化を進めていくには手術室内機器すべての保守点検を臨床工学技士が担い、手術室薬剤管理を薬剤師が行い、物品管理を管理業者に任せ無駄を省いていくことが重要です。麻酔科医・手術室看護師本来の職務である安全な麻酔と看護の提供を可能にするため、上記を進めていきたいと考えております。

（文責 麻酔科部長 小澤治子）